

株主のみなさまへ



第78期 中間報告書

平成29年4月1日 ▶ 平成29年9月30日

contents

トップメッセージ	1
連結財務データ	4
平成29年度第2四半期事業別営業概況	5
Jamco News	7
ジャムコグループのCSR	8
会社概況／事業拠点	9
株主メモ／株式の状況	10
特集 海外拠点のご紹介	裏表紙

株式会社 **ジャムコ**

証券コード：7408



経営
理念

士魂商才

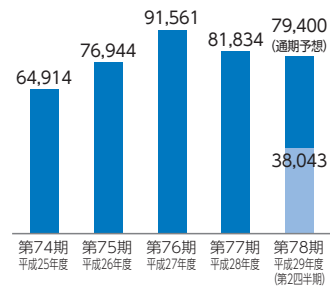
技術のジャムコは、士魂の気概をもって

- 一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めていきます。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。

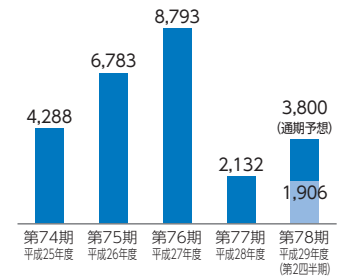


代表取締役社長 大喜多治年

売上高 (単位:百万円)



営業利益 (単位:百万円)





第78期(平成29年度)第2四半期決算(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)の総括をお願いします。

A 第78期(平成29年度)の第2四半期連結累計期間決算は、前期比で売上高は減少したものの増益となりました。

航空輸送業界では、格安航空会社(LCC)の攻勢により競争の激化が続いていますが、世界的な航空需要の拡大と原油安により、米国、日本をはじめとした一部の大手エアラインの収益は改善傾向にあります。航空機メーカーは、航空需要の高まりを背景に、今後20年間で新型の民間航空機需要は4万機を超える見通しを発表しており、現在の受注残機数も高水準を維持していることから、航空機

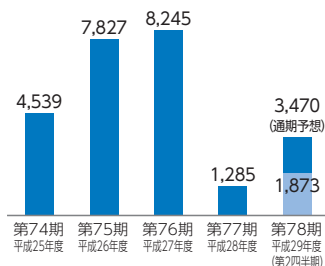
市場は引き続き堅調に推移すると見込まれます。又、ボーイングとエアバスが相次いで日本からの調達拡大方針を明らかにしており、ボーイング787型機については月産機数を現在の12機から平成31(2019)年には14機に引き上げる計画も示されるなど、当社を含めた航空機関連メーカーの受注拡大が期待されています。

こうしたなか、当社グループでは、航空機内装品等製造関連及び航空機シート等製造関連においては、生産効率改善に努めると共に、コスト削減の取組みを進めました。

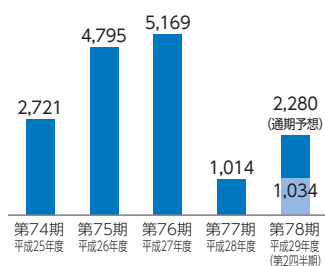
航空機器等製造関連においては、炭素繊維構造部材及び航空機エンジン部品の生産性改善を進めました。

航空機整備等関連においては、飛行安全の確保と品質向上の取組みを継続すると共に、各種サービスの充実と収益改善の取組みに

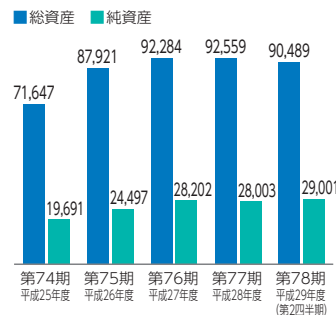
経常利益(単位:百万円)



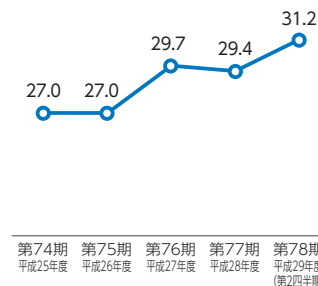
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益(単位:百万円)



総資産/純資産(単位:百万円)



自己資本比率(単位:%)



加え、新規品目の受注を進めました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高 38,043百万円(前年同四半期比2,205百万円減)、営業利益 1,906百万円(前年同四半期は営業損失 293百万円)、経常利益 1,873百万円(前年同四半期は経常損失 1,759百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益 1,034百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失 1,122百万円)となりました。

Q | 通期の見通しはいかがですか？

A 当第2四半期連結累計期間では、航空機シート等製造関連において新規プログラムの初期コストの増加などで経常損失となったものの、航空機内装品等製造関連の経常利益が増加したことにより、当社グループ全体の業績は平成29(2017)年5月10日に公表した平成30(2018)年3月期第2四半期(累計)の連結業績予想数値に対して著しい乖離はなかったことも踏まえ、平成29(2017)年5月10日に公表した平成30(2018)年3月期通期の連

結業績予想に変更はありません。なお、前提となる為替レートにおいても、1米ドル当たり110円から変更はありません。

配当につきましては、当初の予定通り中間配当は行わず、今期末の結果をもって実施させて頂きますが、1株当たり20円を予定しております。

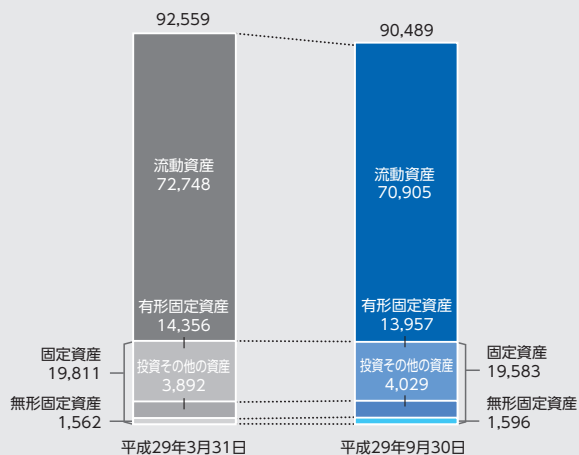
Q | 最後に株主のみなさまへのメッセージをお願いいたします。

A 反グローバリズムや地政学リスクなどの不透明感はあるものの、当社の属する航空機産業は、中長期的な拡大が見込まれています。なかでも中国をはじめアジアが成長をけん引しており、市場の重心は西から東に移っています。当社は創業以来の実績に裏付けされた技術に立脚し、高品質な製品の開発及びたゆまぬコスト削減の努力で競争力を向上させ、アジアに位置する企業として市場の成長を享受していきたいと考えています。株主のみなさまには引き続き当社へのご支援を賜りたくお願い申し上げます。

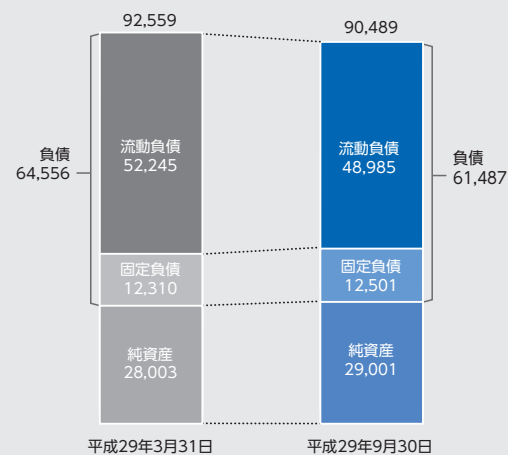
連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

資産の部

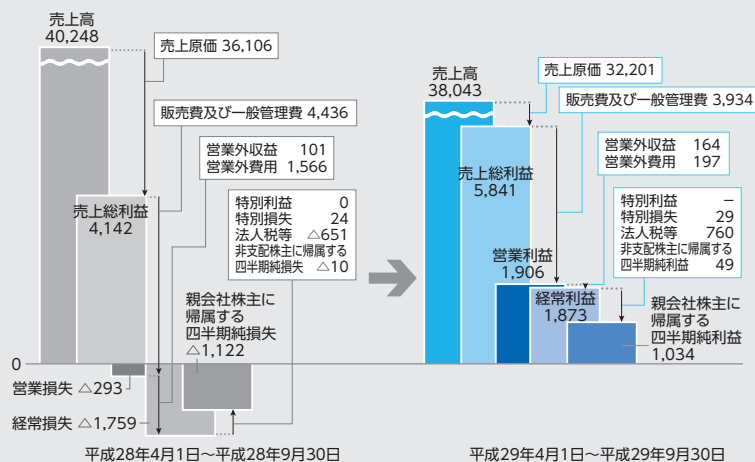


負債・純資産の部



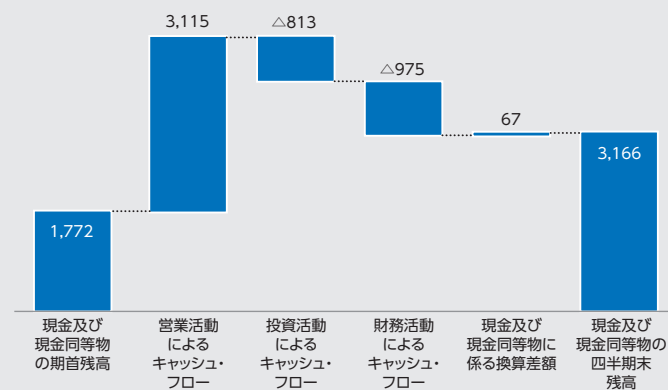
連結損益計算書 (要旨) 平成29年4月1日～平成29年9月30日

(単位：百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨) 平成29年4月1日～平成29年9月30日

(単位：百万円)



航空機内装品等製造関連

当第2四半期

売上高

258億46百万円

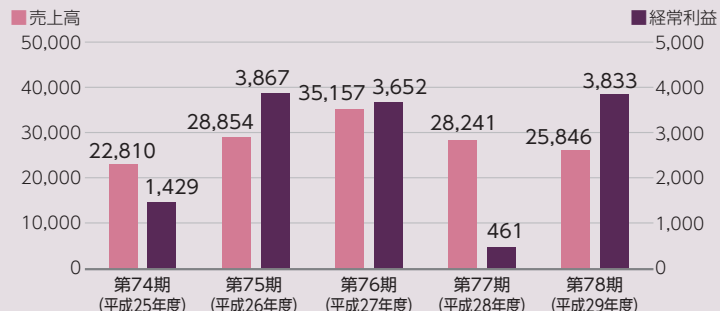
経常利益

38億33百万円



次世代ラバトリー・スペースX

第2四半期売上高・経常利益推移 (単位:百万円)



※平成25年度から平成27年度までは、航空機シート等製造事業の経営成績を含んだ数値となります。

当期の概況

前年同四半期に対して為替相場が円安で推移したことによるドル建て売上高の上振れはありましたが、ボーイングが開発中の777X型機への移行の端境期を迎えた現行の777型機向けのギャレー及びラバトリーの出荷数の減少などで、売上高は前年同四半期に比べ減少しました。一方、経常利益については、売上高の減少の影響はあったものの、円安によるドル建て売上高の上振れに加え、コストダウン施策による原価低減及び工事損失引当金の減少などにより、前年同四半期に比べ増加しました。

この結果、航空機内装品等製造関連は、売上高 25,846百万円 (前年同四半期比 2,394百万円減)、経常利益 3,833百万円 (前年同四半期比 3,372百万円増) となりました。

航空機シート等製造関連

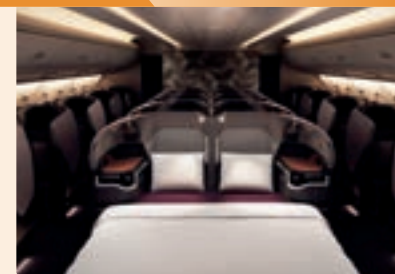
当第2四半期

売上高

62億74百万円

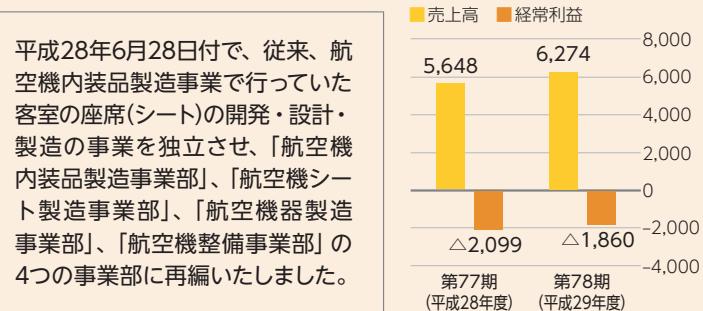
経常損失

△18億60百万円



シンガポール航空向けA380型機用ビジネスクラスシート (写真提供:シンガポール航空)

第2四半期売上高・経常利益推移 (単位:百万円)



平成28年6月28日付で、従来、航空機内装品製造事業で行っていた客室の座席(シート)の開発・設計・製造の事業を独立させ、「航空機内装品製造事業部」、「航空機シート製造事業部」、「航空機器製造事業部」、「航空機整備事業部」の4つの事業部に再編いたしました。

当期の概況

新規プログラムの製品出荷とシートのスペアパーツ販売の増加により、売上高は前年同四半期に比べ増加しました。一方、経常損益については、生産効率の改善等による採算性の向上に努めたものの、新規プログラムの開発・製造工程における初期コストの増加などから経常損失となりました。

この結果、航空機シート等製造関連は、売上高 6,274百万円 (前年同四半期比 625百万円増)、経常損失 1,860百万円 (前年同四半期は経常損失 2,099百万円) となりました。

航空機器等製造関連

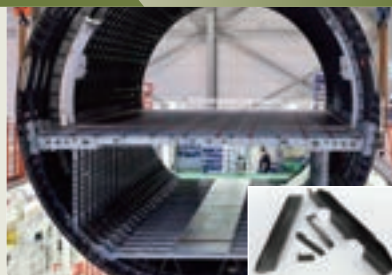
当第2四半期

売上高

27億99百万円

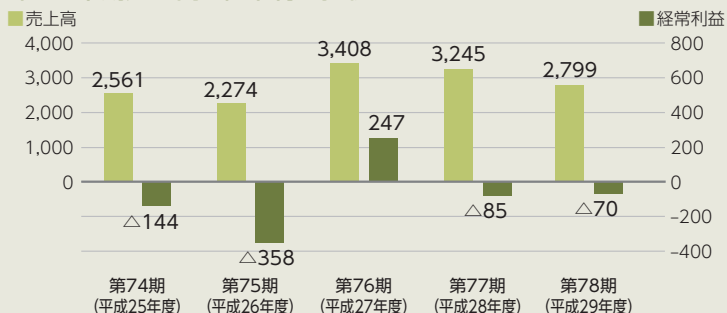
経常損失

△70百万円



エアバスA350型機向け貨物室床下構造材
(写真提供：プレミアムエアロテック社)

第2四半期売上高・経常利益推移 (単位：百万円)



当期の概況

航空機エンジン部品の生産は増加しましたが、エアバスA380型機の月産機数減少の影響等により炭素繊維構造部材(ADP)の生産量が減少し、又、熱交換器等防衛関連の出荷も減少したことなどから、前年同四半期に比べ売上高は減少しました。経常損益については、炭素繊維構造部材の新規品目のコスト削減と航空機エンジン部品の生産効率の改善はあったものの、熱交換器等防衛関連の売上高減少が大きく影響し経常損失となりました。この結果、航空機器等製造関連は、売上高 2,799百万円(前年同四半期比 445百万円減)、経常損失70百万円(前年同四半期は経常損失 85百万円)となりました。

航空機整備等関連

当第2四半期

売上高

31億22百万円

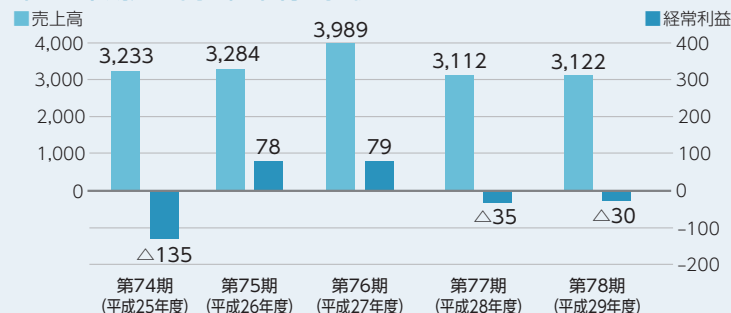
経常損失

△30百万円



機体整備工場ハンガー(仙台)を背景に離陸するボンバルディア機(写真提供：IBEXエアラインズ社)

第2四半期売上高・経常利益推移 (単位：百万円)



当期の概況

アイベックスエアラインズ(株)とパートナーシップ協定を締結するなどリージョナル機整備分野の強化を進めましたが、航空局飛行検査機の日常点検及び整備の契約終了などで機体整備における完成工事が減少しました。一方、装備品整備の生産が堅調に推移したことから、前年同四半期に比べ売上高は増加し、経常損益は改善したものの経常損失となりました。この結果、航空機整備等関連は、売上高 3,122百万円(前年同四半期比 9百万円増)、経常損失 30百万円(前年同四半期は経常損失 35百万円)となりました。



ボーイング787型機ファミリー向け プレミアムクラスシートを2種類発表

4月4日、当社グループは、ボーイング787型機ファミリー向けに2種類のプレミアムクラスシートを発表しました。同シートは、ボーイング社との緊密な連携の下で、787型機の客室のコンセプトである「ボーイング・スカイ・インテリア」の空間及び構造に美しく調和させた製品となっております。



当社グループはギャレー（厨房設備）、ラバトリー（化粧室）、操縦室内装パネル、収納ボックス及び操縦室ドアと周辺隔壁をボーイング787型機向けに供給しています。今回の発表は、長年にわたるボーイング社とのパートナーシップをより強固にし、お客様へ優れた製品をお届けするという当社グループのビジョンを示すものとなりました。

エアバス・サプライヤー・サポート・レイティング 2016アワード受賞

4月4日から6日にドイツ ハンブルグで行われましたAircraft Interiors Expo 2017において、エアバス社よりエアバス・サプライヤー・サポート・レイティング2016アワードを受賞しました。

当社グループでは、エアバス機向けにギャレー及びギャレーインサート（厨房設備に搭載する調理用機器など）を供給してまいりました。この度の受賞では、信頼性の高い製品や関連サポートを継続的に提供する能力及び顧客支援が高く評価され、平成28（2016）年に顧客満足度向上に顕著な貢献を果たしたとして、数多くのサプライヤーの中から、当社を総合第2位、モニュメント部門第1位として評価頂き、昨年に続き2年連続での受賞となりました。



アイベックスエアラインズと航空機整備における パートナーシップ協定を締結

4月7日、当社とアイベックスエアラインズ株式会社（以下「IBEX社」）は、両社の協力関係の強化と当社の機体整備及びIBEX社の運航拠点である仙台空港を中心とした地域経済のさらなる活性化を目指し、「パートナーシップ協定」を締結しました。

この協定をベースとして、当社とIBEX社との間の長年にわたるWin-Winの協力関係をさらに強めることで、仙台空港を中心としたリージョナル・エアライン整備事業としての新たなビジネスモデルを創出することを目指します。

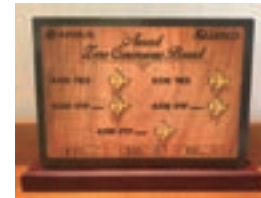


エアバスよりゼロ・コンセッション・アワード受賞

6月26日、スペイン ヘタフェにおいて、当社グループはエアバス社よりゼロ・コンセッション・アワード（Zero Concession Award）を受賞しました。

当社グループでは、エアバス機の垂直尾翼や世界初の総二階建て超大型機A380型機の二階床構造部材をADP製法（Advanced Pultrusion製法：炭素繊維複合材の連続成形製法）で製造・供給していますが、この度の受賞では、ADP製法の特徴である極めて安定した内部品質や寸法精度の高さによって製品供給のパフォーマンスを高く維持していることが評価されました。

当社グループは、今後ますます航空機への使用増加が見込まれる炭素繊維構造部材の研究開発に積極的に取り組むと同時に製品品質の維持向上に努めてまいります。



CSR推進活動の紹介

ジャムコグループは経営理念の実現に向けてCSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任) を推進し、ステークホルダーのみなさまとの信頼関係を大切に、豊かで持続可能な社会づくりに貢献していきます。

これまでもジャムコグループは、環境保護、コンプライアンス、公正な取引、情報セキュリティ、個人情報の保護や地域社会との交流など、個別に社会的課題や問題の解決について、都度、それらに向き合い、真摯にその課題の解決に努めてきました。企業の社会的責任活動が求められる中、本年4月より、CSR活動を本格的に開始しました。CSR活動の開始にあたっては、昨年度よりCSRに関連する情報の収集や調査、CSR全般の知識の習得に加え、推進体制や推進手法の検討など、準備を進めてきました。その後、半年程をかけて、基準となるISO26000に求められる

要求事項とのギャップ分析を行い、既にも実施している事項や不足している事項を整理ながら、問題点や課題の洗い出し作業を行ってきました。その中で明るみになった課題等への対応を、今年度の活動目標として定め、CSR活動を進めております。

活動の推進体制は、担当役員が務める委員長のもと、各部署から選出されたCSR推進委員で構成されるCSR推進委員会が主導して、各課題の改善に向け活動を行っています。

CSR基本方針

- 士魂の気概をもって、「誇り高く、誠実な会社」としてコンプライアンスを遵守します。
- お客様の期待に応える製品とサービスを提供すると共に、社員の成長と幸せを追求していきます。
- 社会や環境との共生を図り、豊かな社会づくりに貢献していきます。

この基本方針は、ジャムコの経営理念に込められた、“お客様の喜びと社員の幸せ、自然との共生と豊かな社会づくりへの貢献を目指す”という、ジャムコの企業活動の根本的な考え方を改めて「CSR基本方針」として再定義したものです。

ISO26000中核主題	平成29(2017)年度の活動目標
組織統治/ 社会的責任の認識と 組織全体への統合	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ企業におけるCSRの現状把握 ● CSR活動のグループ展開計画の策定
人権	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ企業における事業と人権との関わりの現状把握 ● 人権方針の策定 ● 人権に関する教育の実施
労働慣行	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークライフバランスのさらなる推進 ● グループ企業における労働慣行の現状把握
環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業活動における温室効果ガス(GHG)の把握と削減
公正な事業慣行	<ul style="list-style-type: none"> ● コンプライアンス規範の浸透 ● 調達方針の策定
消費者課題	<ul style="list-style-type: none"> ● より安全な製品/サービスの提供
コミュニティへの参画及び コミュニティの発展	<ul style="list-style-type: none"> ● 当社の各拠点及びグループ企業における社会貢献活動の現状把握

会社概況／事業拠点

会社概況 (平成29年9月30日現在)

会社概況

商号	株式会社ジャムコ
本店	東京都三鷹市大沢六丁目11番25号
本社	東京都立川市高松町一丁目100番
設立年月日	昭和24年3月15日
創立年月日	昭和30年9月1日
主な事業内容	航空機内装品等製造関連 ガレージ、ラバトリー、ギャレー搭載用各種装備品等の製造 航空機シート等製造関連 航空機シート及びシートコンソールの製造 航空機器等製造関連 熱交換器、航空機用炭素繊維構造部材、民間航空機エンジン部品等の製造 航空機整備等関連 航空機の機体、客室、装備品等の整備・改造
資本金	5,359,893千円
従業員数	連結：3,100名 個別：1,220名

役員／執行役員

代表取締役社長	大喜多 治年	常務執行役員	市原 一義
代表取締役副社長執行役員	大上 克裕	常務執行役員	田所 務
取締役専務執行役員	木村 敏和	常務執行役員	西宮 和夫
取締役専務執行役員	加藤 正道	常務執行役員	豊福 俊雄
取締役常務執行役員	青木 康成	執行役員	鈴木 雅人
取締役常務執行役員	粕谷 寿久	執行役員	伊田 幸男
取締役常務執行役員	後藤 健太郎	執行役員	内城 行雄
社外取締役	大崎 直哉	執行役員	阿部 英二
社外取締役	小堀 寿亮	執行役員	秋葉 正史
社外取締役*	鈴木 伸一	執行役員	和田 正史
社外取締役*	渡辺 樹一		
常勤監査役	磯上 範好		
常勤監査役	大倉 敏治		
社外監査役*	河村 寛治		
社外監査役*	木須 芳紹		

*は、東京証券取引所の規定する独立役員です。

事業拠点 (平成29年9月30日現在)

事業所／子会社／関連会社一覧

本社 東京都立川市

航空機内装品・機器事業本部

- 航空機内装品製造事業部 東京都立川市
- 航空機シート製造事業部 東京都立川市
- 航空機器製造事業部 東京都調布市

航空機整備事業部

- 機体整備工場 宮城県岩沼市
- 帯広支所 北海道帯広市
- 宮崎事業所 宮崎県宮崎市
- 部品整備工場 千葉県成田市

東京都大田区
東京都調布市

JAMCO 事業所・工場
JAMCO 子会社・関連会社

■ 新潟支所 (株)新潟ジャムコ (株)中条ジャムコ

■ 帯広支所 航空機整備事業部 機体整備工場 (株)ジャムコ エアロ マニュファクチャリング

■ 航空機器製造事業部 航空機整備事業部 部品整備工場 (調布)

■ 航空機整備事業部 部品整備工場 (成田) (株)ジャムコ エアロテック

■ 航空機整備事業部 部品整備工場 (羽田)

■ 宮崎事業所 (株)宮崎ジャムコ

■ (株)徳島ジャムコ

■ Germany JAMCO Corporation HAMBURG BRANCH

■ United States JAMCO AMERICA, INC.

■ Japan JAMCO Corporation

■ Philippines JAMCO PHILIPPINES, INC.

■ Singapore JAMCO SINGAPORE PTE LTD. JAMCO AERO DESIGN & ENGINEERING PTE LTD. SINGAPORE JAMCO SERVICES PTE LTD.

※航空機整備事業部 中部支所は平成29年9月1日付で廃止しました。

株主メモ

事業年度	…… 4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	…… 3月31日
中間配当金受領株主確定日	…… 9月30日
定時株主総会	…… 毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	…… 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	…… 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711(通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公告の方法	…… 電子公告により行う 公告掲載URL http://www.pronexus.co.jp/koukoku/7408/7408.html (但し、電子公告によることが出来ない事故、その他の止むを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。) なお、計算書類及び連結計算書類に係る情報は、インターネット上の当社ウェブサイト (http://www.jamco.co.jp/) においてご覧いただけます。

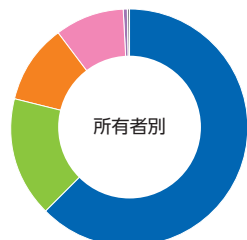
ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできません。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店にお問い合わせください。

株式の状況 (平成29年9月30日現在)

発行可能株式総数	…… 80,000,000株
発行済株式の総数	…… 26,863,974株
株主数	…… 5,669名
上場証券取引所	…… 東京証券取引所市場第一部 (証券コード7408)

株式分布状況



■ その他の法人	62.58%	16,810,900株
■ 個人・その他	16.40%	4,406,357株
■ 外国法人等	10.96%	2,945,355株
■ 金融機関	9.44%	2,533,100株
■ 金融商品取引業者	0.48%	129,500株
■ 自己名義株式	0.14%	38,762株

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
伊藤忠商事株式会社	8,956	33.39
ANAホールディングス株式会社	5,373	20.03
昭和飛行機工業株式会社	2,003	7.46
GOLDMAN, SACHS & CO. REG	955	3.56
ジャムコ従業員持株会	393	1.46
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	333	1.24
BNYMSANV RE BNYMTD RE CF RUFFER PACIFIC FUND	300	1.11
三菱商事株式会社	221	0.82
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	217	0.80
第一生命保険株式会社	200	0.74

(注)持株比率は自己株式(38,762株)を控除して計算しております。

『ジャムコを訪ねて』 — 海外拠点のご紹介 —

フィリピン
PHILIPPINES

ジャムコフィリピンについて

フィリピンは、東南アジアの中心に位置する島国（7,000以上の島々から構成される）で、地理的利便性と英語が堪能な雇用マーケットを有する国です。英語を公用語とし毎年4万人の理数系大学卒業者を輩出しているという特徴を活かし、官民が一体となってIT産業、ビジネス・プロセス・アウトソーシング事業の育成、発展に力を注いでいます。

面積：約30万平方キロメートル（日本の約80%）

人口：約101百万人

ジャムコフィリピンは、平成23（2011）年にパンパンガ州のクラークフリーポートゾーン（特別経済地区）に設立され、第一工場では航空機内装品の製造事業（厨房設備の部品製造・組立）をおこなっております。

また、平成27（2015）年には新たに第二工場が操業を開始しました。

両工場は、内装品パネルなどの部品製造・組立用に40台を超える各種機械（カッティング・ミーリング・検査用）および表面処理と塗装の設備を有しております。創業当時は40数名だった従業員は、生産業務の増大に伴って、現在は300名を超える規模にまで拡大し、その約8割を30歳以下の若い従業員が占める活気あふれる職場です。

これからもジャムコフィリピンは、ジャムコグループにおける重要な拠点として、その役割を果たし続けてまいります。

株主：JAMCO CORPORATION（70%）
JAMCO AMERICA, INC.（30%）

面積：約6,000㎡ 第一工場：平成23（2011）年オープン
約7,000㎡ 第二工場：平成27（2015）年オープン

従業員：344名 平成29（2017）年9月30日現在/日本人スタッフ4名含む



株式会社 ジャムコ

〒190-0011 東京都立川市高松町一丁目100番地
TEL:042-503-9900（代表）

※ 本資料に記載されております当社の計画や予測等は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が独自に判断したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なる結果となることがあります。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。



この冊子は環境保全のため、植物油インキとFSC® 認証紙を使用しています。